

ICSW

ICSW グローバル・コーポレーション（国際社協ニュースレター）

2010年2月

【概要】

- 2010年合同世界会議「ソーシャルワークと世界開発：アジェンダ」
- 国連社会開発委員会、ニューヨークで会合
- 中国社会福祉協会発足
- 第4回アセアンGO-NGOフォーラム
- 2010年、賛助国のバラバラな対応が問題を引き起こす
- 地域社会政策およびグローバル・ガバナンスに関する新しい本
- 世界銀行社会開発ノート
- フィンランド国立保健福祉研究所

**2010年合同世界会議「ソーシャルワークと世界開発：アジェンダ」**

香港が2千本近くの要約を受け取ったという先月のニュースの続報；主催者は、早期登録の締切を、4月1日まで延長することとした。これは、要約の受領が決まったばかりの人々が、安い登録料の恩恵を利用できるようにするためである。この通知は、受領の知らせと共に、香港から送られているところである。

会議は2010年6月10～14日にかけて行なわれる。まだ登録を済ませていない方は、以下のウェブサイトへ。

[www.swsd2010.org](http://www.swsd2010.org)

**国連社会開発委員会、ニューヨークで会合**



社会開発委員会は、貧困を撲滅し、完全に生産的な雇用を促進し、そして、安定した、安全な、平和な、調和の取れた、なによりも万人のための社会を実現するために、ソーシャル・インテグレーションの促進に関する決議を通過させた。こうした目標は、社会開発

に関するコペンハーゲン宣言およびその行動計画において発表されたものである。委員会では、障害者および高齢者の権利に関する文書もまた承認された。

ソーシャル・インテグレーションに関する決議は、貧しい人々や貧困に陥る危険にさらされている人々のニーズに焦点を当てつつ、インフォーマル経済における労働者のカバーを含む社会保護制度を発展・拡大させるよう、各国政府の尻を叩くものである。

ICSW は、とりわけ社会保護に重点を置くことを歓迎する。委員会に対する ICSW の声明において、ICSW は以下のように述べている。

「本当に必要なものは、再度の危機が襲う前に確立可能な、総合的な社会保護制度の発展である。」

ICSW は、ILO/WHO が旗振り役を務める社会保護フロアのイニシアチブを支持する。これには 2 つの要素がある。まず一つ目は、水、衛生、食物、適切な栄養、保健、教育、住居、その他の社会サービス（命や財産を守る情報等）などの基本的なサービスに対する入手可能性、継続性、および地理的・財務的アクセスを確保することである。そして二つ目は、貧しい人々や弱い人々のために最低限の収入と生活の保障を提供し、基本的なサービスへのアクセスを促進するために必要不可欠な社会給付（給付金もしくは現物給付）の基本的なセットを確保することによって、アクセスを実現することである。ICSW が提出した文書は、以下のサイトにおいて国連公用語での入手が可能である。

[http://www.un.org/esa/socdev/csd/2010\\_ngostats.html](http://www.un.org/esa/socdev/csd/2010_ngostats.html)

<http://www.icsw.org/un/un.htm>



（左から：国連経済社会局 NGO ユニット主任の Yao Ngoran、Christian Rollet（部分）、Charles Abbey）

委員会の決議は、世界の金融・経済・食料・エネルギー・気候変動危機、多国間貿易に関する話し合いにおける成果の欠如、そして国際経済システムの信頼性の欠損によってもたらされた、社会開発へのネガティブな意味合いに関する深い関心を表すものである。社会正義、社会結合、経済の回復と成長、そして環境の持続性を促進する政策へのニーズを認識し、また幅広い社会開発アジェンダの、国内的・国際的に不適切な遂行を認めて、委員会は雇用問題およびソーシャル・インテグレーションに、より大きな注意を向けるよう呼びかけるものである。



ICSW メンバーである香港社協、そして今年の会議主催者を代表する蔡海偉氏（Hoi Wai Chua：右から 2 番目）は、社会開発サミットから 15 年目を記念して行なわれたハイレベル・パネル・ディスカッションのメンバーを務めた。ICSW の副会長である Charles Abbey 氏は、パネル・ディスカッションの間に ICSW を代表して発言した。その中で、彼は以下のように述べた。

「コペンハーゲン・アジェンダの精神を取り戻そうと考える政府や市民社会の中に、新しいうねりが生まれつつある。サミットで合意された社会開発の総合的なビジョンでは、各国政府および国際組織のアジェンダを形作るための、優秀で耐久性のある基礎を提供する。15 回目を記念するこの機会に、もう一度政府および市民社会に対してコペンハーゲン・サミットの公約と行動プログラムを付託しよう。」

委員会の 2011～2012 年のレビューおよび政策サイクルの優先テーマは貧困撲滅であり、それとソーシャル・インテグレーション、完全雇用、万人のためのディーセント・ワークとの関わり合いを考慮に入れるものである。なお、写真の使用に関しては、国連経済社会局の社会政策開発室に感謝する。

### 中国社会福祉協会発足



中国社会福祉協会（The China Association of Social Welfare）が、1 月 22 日、北京において発足した。人民大会堂で行なわれた発足式には、中国全土から 300 人の代議員が参加した。発足に当たっては、全人代副委員長の Chen Changzhi を含む多くの高官らが出席した。公式の式典に先立って、代議員らは Liu Guanghe 氏を、協会の初代会長に選出した。

ICSW のデニス・コレル常務理事は、発足式でスピーチを行なうよう招待され、中国社会福祉協会の印象深い始まりについて祝意を述べた。

スピーチの中で、彼は、コミュニティ内の恵まれない人々にサービスを提供する何千と言う組織をひとつにまとめることで中国の社会福祉の将来を見守る、という協会の使命を認めた。彼はまた、社会福祉の論理と実践との間につながりを創出することは、福祉分野で働く人々の仕事を助けるだろうと述べた。ICSW は、国際的な社会福祉組織との交流と協力を通しての、協会の国際的なコミットメントを歓迎するものである。社会福祉サービスの認定制度の確立は、中国に住む誰もが、同じ水準のサービスを期待できることを確保するものである。

中国訪問中、彼は招待主であり、協会の副会長兼事務局長である Feng Ziaoli 女史と、社会福祉問題についての多くの議論をする機会を得た。

#### 第4回アセアン GO-NGO フォーラム



社会福祉と開発のための第4回アセアンGO-NGOフォーラムが、2010年1月にシンガポールにて開かれた。これは、アセアン事務局およびシンガポールの地域開発・青年・スポーツ省が主催したものである。ICSWは、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、シンガポール、フィリピン、タイ、ヴェトナムからの市民社会のリーダーにより、包括的な参加を果たすことができた。

これは、10カ国全てからNGOが集まった最初のフォーラムである。ICSWは調査の結果を発表し、メンバーとともに、政府宛の韓国を話し合った。政府高官らとの正式な会合に先立って、ICSWは参加しているNGOのために会合を開き、フォーラムで考えるべき主要な問題に関する意見を集約した。

フォーラムに提出されたICSWの調査研究レポート2本は以下の通りである。

- 『アセアン各国における世界金融危機とその社会的インパクト (*The Global Financial Crisis and its Social Impact in the Countries in ASEAN*)』
- 『ギャップを埋める～アセアン地域における障害者に対する権利ベースのアプローチ (*Closing the gap: Making the Rights-Based Approach Real for People with*

詳しくは以下を参照のこと。

<http://www.icsw.org/region/seap.htm>

#### **2010年、賛助国のバラバラな対応が問題を引き起こす**

[http://www.oecd.org/document/20/0,3343,en\\_2649\\_34447\\_44617556\\_1\\_1\\_1\\_37413,0.html](http://www.oecd.org/document/20/0,3343,en_2649_34447_44617556_1_1_1_37413,0.html)

OECDは、2010年における開発途上国への支援が、2004年から35%増加した結果、ドル・ベースで記録的なレベルに達するだろうと報告した。それでも、世界の主要な援助国が5年前にグレンイーグルス・サミットで約束した額には及ばない。大多数は自分たちの公約を守るだろうが、いくつかの大口の賛助者が下回った場合、そこには深刻な不足が生じることになる。

特にアフリカは、アフリカへの政府開発援助（ODA）を約束したヨーロッパの賛助国のうち、何か国かの不履行が原因で、グレンイーグルスにおいて思い描かれた250億ドルの増加のうち、たった120億ドルしか受け取れない可能性がある。

2005年、EUおよびOECD開発援助委員会（DAC）双方のメンバーである15カ国は、2010年にODA国の最低目標である国民総所得（GNI）の0.51%に到達することを公約した。あるものはその目標を超えるだろう。GNIの1.03%という世界で最も高いODAを誇るスウェーデン、それに続くルクセンブルグ（1%）、デンマーク（0.83%）、そしてオランダ（0.8%）がそうである。

次いでベルギー（0.7%）、英国（0.56%）フィンランド（0.55%）、アイルランド（0.52%）と続く（[See table:](#)の表を参照のこと）。

届かないものは、フランス（0.46%）、ドイツ（0.40%）、オーストリア（0.37%）、ポルトガル（0.34%）、ギリシャ（0.21%）、そしてイタリア（0.20%）である。

賛助国16カ国が立派に公約を果たしたおかげで、援助は強く大きくなった。しかし、その他の国々、とりわけ、オーストリア、フランス、ドイツ、ギリシャ、イタリア、日本、そしてポルトガルの成績不良は、援助全体が約束されたものからは程遠い深刻な不足に陥ることを意味する。こうした公約は、政府首脳によって繰り返し約束され、また確認されてきたが、今度はそれを満額実行することが必要不可欠である。

#### **地域社会政策およびグローバル・ガバナンスに関する新しい本**

- B. Deacon、L. van Langenhove、M. Macovei、N. Yeates（編）
- 『世界・地域の社会政策およびグローバル・ガバナンス：アフリカ、アジア、ヨーロッパおよびラテン・アメリカにおける新しい研究と政策アジェンダ』
- ロンドン、Routledge
- ISBN : 978-0-415-45659-3

・ 244ページ

本書では、グローバル・ガバナンスの多元的で、公正かつ効果的な制度の不可欠な構成要素として、世界-地域の社会政策のケースを調査し、その発展像を探る。本書に関する詳細は以下を参照のこと。

<http://www.routledgepolitics.com/books/World-Regional-Social-Policy-and-Global-Governance-isbn9780415456593>

#### **フィンランド国立保健福祉研究所**

[http://www.thl.fi/en\\_US/web/en](http://www.thl.fi/en_US/web/en)

国立保健福祉研究所（THL）は、フィンランドの社会保健省の管轄下にある世界でも名の知れた研究開発機関である。THLには国際部門があり、保健セクターおよび社会セクターの開発に特化している（<http://idc.stakes.fi/EN/index.htm>）。3つの専門チームから成り、それぞれ、国際協力およびプロジェクト開発、国立公衆衛生研究所国際連盟（IANPHI）、国際コーディネーションとなっている。最近の出版物に、ロシアにおけるソーシャルワークに関する2冊の本がある。

本ニュースレターの内容の引用・転載は、出展を明らかにする限り自由です。本ニュースレターに掲載された見解は、必ずしも ICSW の方針であるとは限りません。

編集：ICSW 常務理事 デニス・コレル

ICSW 連絡先

ICSW C/- MOVISIE PO Box 19129

3501 DC Utrecht

Netherlands

Email: [icsw@icsw.org](mailto:icsw@icsw.org)

Tel: +31 30 789 2226